

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	51	学 校 名	島田商業高等学校（定時制）	校 長 名	増田 章江
------	----	-------	---------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	(ア) 事故、いじめのない学校作り	相談できる教職員が校内にいる生徒 80%	「相談できる先生がいる」 90.0% 「信頼できる先生がいる」 96.7%	A	○小さな職員室を生かし、職員間での情報共有ができた。また、登下校時に教員が昇降口に立ち、生徒への声掛けができた。 ○学校心理アドバイザー（SC）や東海道シグマの支援員を効果的に活用し、連携できたことで、生徒の状況を把握しやすかった。 ▲自分から教員に働きかけてこない（相談できない）生徒への対応を考えるとともに、より一層の心配りが必要である。 ☆登下校の声掛けや生徒に寄り添った指導を次年度も継続していくとともに、引き続き、SCの効果的な利用を考えていく。 ☆生徒と教員の良好な人間関係作りを維持しながら、生徒に迎合することのないよう、教員の共通理解が必要。 ☆日常的な関わりに加え学校行事等を通して、より信頼関係を構築していきたい。
		防災訓練により防災意識が高まったと答える生徒 80%	「防災訓練により防災意識が高まった」 66.6% （後期防災訓練生徒アンケート結果から。「意識が高まった」（20人）、「特に変化なし」（10人））。 「安全に関する指導がきちんと行われている」 96.7%	B	○2回の防災訓練によって、避難経路の確認や居住地に想定される浸水危険度などを理解させることができた。特に、2回目の訓練は、能登半島地震直後ということもあり、自宅のハザードマップを確認させる活動が大変効果的だった。 ▲地区防災訓練の生徒参加数は9月が0人、12月が1人だった。参加できない様々な理由があり、校内の防災訓練で補っていく必要がある。 ☆防災意識高揚のために、災害発生後の生活で役立つ知識を伝えるなど、より効果的な訓練内容を検討したい。
		ネットに起因するトラブル 0	・ネットに起因するトラブルの報告件数 0 ・消費者教育を3月に実施。 ・情報モラルに関して、家庭との連携が十分とは言えない。	A	▲家庭と連携した情報モラル教育の推進は不十分であった。 ☆PTA総会や三者面談等の機会に、ネットトラブル防止の冊子を配布するなど、家庭との連携の方法を検討していきたい。 ☆オンラインでの（見ず知らずの他人との）交流に躊躇しない世代である生徒に、情報リテラシーの涵養や消費者教育が今後必要である。ネットとの距離感を常に意識させ、生活習慣の向上に繋げたい。

様式第3号

イ	(イ) 特別支援 体制の充 実	ユニバーサルデザインに係る実践を共有する機会(研修)を2回設定	ユニバーサルデザインの内容を含んだ特別支援教育の研修を、吉田特別支援学校駿遠分教室から講師を3回招いて実施した。	A	○研修を通して、特別支援についての理解が深まり、すべての生徒にとって理解しやすい、生活しやすい環境を構築できた。 ○授業におけるユニバーサルデザイン(ルビ振りや声掛け等)を徹底できた。 ☆次年度は、特別支援に関する違った視点にフォーカスした研修を企画したい。
		教員研修を2回実施	・吉田特別支援学校駿遠分教室から講師を招いて特別支援教育に関する研修を3回実施した。 ・定例の職員会議の際に情報共有と研修を実施した。 ・臨床心理士によるソーシャルスキルトレーニング講座を3回実施し、講座後に講師と教員による振り返りを実施した。	A	○専門的な知識を持った特別支援学校の講師から教えていただき、特別支援教育についての理解が深まった。具体的な方策をご助言いただき、実践できた。また、講師による研修3回に加え、職員会議の際の情報交換等も行われ、とても充実した研修となった。 ▲今回の研修は、困り感に寄り添うものが主であり、対症療法的な指導が多かった。来年度は、卒業後にどのような力を身に付けさせたいかという長期的な目標やキャリア教育的視点からの支援方法等を考えていく必要がある。 ☆来年度も特別支援教育に関する研修及びソーシャルスキルトレーニング講座を継続して実施することで、学んだスキルを活用して生徒の成長を後押ししていきたい。
	(ア) 生徒の基 礎学力向 上	ICT 機器を活用するなど、教え方や教材に工夫があると答える生徒80%	「ICT 機器を活用するなど、教え方や教材に工夫がある」100%	A	○chromebook を使用することに抵抗感がなくなり、各授業において活用が進んだ。 ▲ICTとアナログのそれぞれの良さを認識し、うまく使い分けていくとともに、特に、生成AIの活用も含めたさらなる工夫が必要である。 ☆その日の目標に対しての振り返り等をGoogle フォームやGoogle ドキュメントを利用して提出させ、評価材料に加えたり、授業の諸々の教材を配信したりするなどの工夫が考えられる。 ☆ICTの活用が当たり前になってきたので、さらに効果的な活用法を模索していく。
		国数英において、基礎力診断テストを年2回実施する。授業は自分の学力を伸ばすのに役立っていると答える生徒80% 宿題やテスト、検定、	「授業は、自分の学力を伸ばすのに役立っている」86.7% 「宿題やテスト、検定、補習など授業以外の部分についても、きちんと指導が行われている」86.7%	B	○単元テストや定期試験に向けて努力する生徒が増えてきている。また、検定合格等に向けての目標や学習内容が明確になり、意欲的・主体的に学習に取り組むようになった。自分の成長を実感できていると感じる。 ▲基礎力診断テストは数学のみの実施であった。定通教育研究会作成のテストは生徒の実態に合っておらず、今後は独自に作成するなどの工夫が必要である。 ☆生徒の計算力や漢字の識字率等を考えると、学習支援事業等の基礎学力向上対策は今後も継続していきたい。その上で、その他の能力を伸ばす方策も検討していく必要があ

様式第3号

		補習など授業以外の部分についても、きちんと指導が行われていると答える生徒 80%			る。 ☆来年度以降は、基礎力診断テストを教科に任せるのではなく教務課で日程を設定して一斉に行い、その結果を全体で共有し、指導の一助にしていきたい。
	(イ) 商業に関する知識・技能の習得	各種検定合格率 50%	合格率 66.0% (延べ受験者 100人 合格者 66人 1月9日現在)	A	○受検者数が約 10 倍増加した。生徒の積極的な学習への取組が結果として表れ、特に、1 級・準 1 級・2 級等の上級合格者が増えた。 ☆今後は、1 級合格者を増やすとともに、まだ合格していない生徒を合格させたい。
		商業に関する専門的な知識・技能を習得した生徒 90%	「商業の知識と技術を身につけることができる」 96.7%	A	○検定受験とその勉強によって、知識と技術を身に付け、スキルアップしようとする向上心も大きく伸びた。 ☆更に自信をつけられるように支援したい。
ウ	(ア) 基本的生活習慣の確立	自ら挨拶ができ、言葉遣いに気を付けている生徒 80%	「自分からあいさつができ、「言葉遣いに気を付けている」 73.3%	B	○自分から挨拶を“毎回”することができない生徒もいるが、以前よりも大きな声で堂々とできる生徒が増えた。特に、登下校時に教員が昇降口に立ち、多くの生徒が挨拶を返してくれるようになった。 ○消極的で、コミュニケーションが不得意な生徒も多い中で、7 割を超える生徒が挨拶や言葉遣いに気を付けており、ソーシャルスキルトレーニング講座等の効果が徐々に出てきているように感じる。慌てず継続的に指導していきたい。 ▲教員側から挨拶をしても一切反応がない生徒がいる。 ☆「○○さん、さようなら」等、名前を読んで挨拶をすることで、普段反応が返ってこない生徒に対しても、挨拶への意識をつけさせたい。また、声を出しにくい生徒には、会釈等の自然な挨拶ができるように支援したい。教員からではなく、自ら挨拶ができるような雰囲気を作っていきたい。 ☆挨拶はコミュニケーションの基本であり、卒業後の進路での必要性を感じさせるような指導を工夫していくことも必要である。
		欠席、遅刻、早退数が昨年度より減少している生徒 80%	昨年度よりも欠席・遅刻・早退の出席状況に改善が見られる生徒 66.7%	B	○特定の長欠生徒又は退学者を除けば、出席状況は良好。6 割を超える生徒が昨年度より改善し、下がった生徒の中にも、ほぼ皆勤に等しい生徒もいる。 ○生活習慣の乱れによる遅刻、欠席、体調不良者はいるものの、なるべく授業に出ようとする生徒が以前より増えたように感じる。 ▲出席状況が芳しくない特定の生徒に対し

様式第3号

					ては、保護者との連絡を密にとり、原因の発見と解決に取り組む必要がある。 ▲体調管理だけでなく、心の管理が必要な生徒が増えている。メンタルヘルスケアの必要性を感じる。 ☆生徒が抱える心の問題を教員間で共有し、生徒が居場所を感じる学校にしていく。また、日々の声掛けにより、生徒が学校や授業を大切にする気持ちをより向上させたい。
		提出物の期限を守っている生徒 70%	「提出物の期限を守っている」 76.7%	A	○Google ClassroomやGoogle フォーム等での提出が増え、学校にいたくとも提出できる課題が増えてきたこともあり、提出状況は昨年度より大幅に良くなった。 ▲取り掛かりが遅いために提出が遅れたり、内容が手薄になったりする生徒もいるので、先を見通して（逆算して）動けるとよい。 ▲提出期限を守れない生徒への対応を考えていく必要がある。 ☆進路実現を見据えた指導をしていくなかで、提出期限の大切さを理解させるとともに、提出物の中身が良くなるような指導を行っていききたい。
	(イ) 健康増進のための取組み	欠席、遅刻、早退数が昨年度より減少している生徒 80%	昨年度よりも欠席・遅刻・早退の出席状況に改善が見られる生徒 66.7%	B	○学校が好きで、よく登校してきている。 ▲体調不良者への生活習慣の聞取りは行っているが、行動変容までは至らなかった。 ▲1学期はかなり良好な状況を維持できたが、2学期以降、特に進路が決まった生徒の緩みが気になった。最後までやり抜くための方策が声掛けのみとなり、やや手詰まり感があつたので、進路決定者への初期指導の充実を図る必要がある。 ☆生活の改善点を、個別に、より具体的に一緒に考えていく必要がある。
エ	(ア) 法令に基づいた適正・迅速な業務遂行	人為的要因による学校経営予算の執行残0	執行残はおおむね0である。	A	○各課、分掌からの要望をもとに状況を聞き取り、有効に執行できた。 ☆教員からのヒアリングと合わせ、教育現場を実際に目で確認し、更に予算を有効活用する。
		監査・会計指導での指摘事項0	工事監査において注意事項あり。その他は指摘事項0。	B	▲工事事務においては多岐にわたる知識の習得が必要となる。 ☆各人が知識の習得のため、研修等に積極的に参加する。また、情報共有し事務室全体のレベルアップを図る。
	(イ) ワークライフバランスを意識した業務執行	改革を意識した業務の見直し、平準化	時間外業務が過度にならないような分担を実行できた。	A	○校納金の処理において一部ネットバンキングを導入した。 ☆来年度の教員数減に対応できるような業務の精選と改善を検討していく必要がある。 ☆ネットバンキングの活用を進め、事務量の軽減につなげたい。

